

【別紙】

2025年度（令和7年度）みなみ阿波観光局 評価会議

参考意見集（ブレインストーミング概要）

1. 位置づけ

本資料は、評価会議における議題⑤「次年度に向けた意見交換（ブレインストーミング）」において出された主な意見・示唆を整理したものである。

なお、本意見集は決定事項ではなく、今後の事業検討・方針整理の参考資料として位置づける。

2. 主な意見・示唆（テーマ別整理）

（1）みなみ阿波観光局 観光地域づくり全体に関する視点

- ・数値・KPI の達成状況だけでなく、地域側の受け入れ体制や意識変化も成果として可視化する必要がある
- ・DMO として「何をやらないか」を明確にすることも重要
- ・広域連携と地域独自性のバランスを、今後さらに意識すべき段階に来ている

（2）サステナブルツーリズム・体験型観光について

- ・サステナブルという言葉自体が目的化しないよう、参加者にとっての「体験価値」や「学び」を明確に伝える工夫が必要
- ・小規模・高付加価値型のツアーは、量的拡大よりも質的深化を重視すべき
- ・地域住民の理解と納得感を高めるための説明・共有の場づくりが重要

（3）教育旅行事業に関する意見

- ・教育旅行は短期的な収益ではなく、将来的な関係人口・リピーター創出につながる重要な投資
- ・学校側が求める「学習テーマ」と、地域が提供できる「リアルな体験」の接続をより明確に継続的な受け入れを見据え、プログラムの標準化・マニュアル化も検討課題

（4）情報発信・プロモーションに関する示唆

- ・ホームページや SNS は「情報の量」よりも「誰に何を届けるか」を明確にすべき

- ・観光客向けと、関係人口・事業者向けの情報整理が必要
- ・成果事例・失敗事例の両方を発信することで、地域内外の信頼性向上につながる

(5) 次年度（令和8年度）に向けた方向性に関する意見

- ・既存事業の整理・磨き上げを優先し、新規事業はテーマを絞って展開すべき
- ・人材育成・関係者ネットワークの強化が中長期的な鍵となる
- ・外部評価を積極的に取り入れ、事業改善のサイクルを明確にすることが重要